

2022年3月期 決算説明会

「真のグローバルサプライヤーとして
社会から必要とされる企業」をめざして

株式会社 JSP

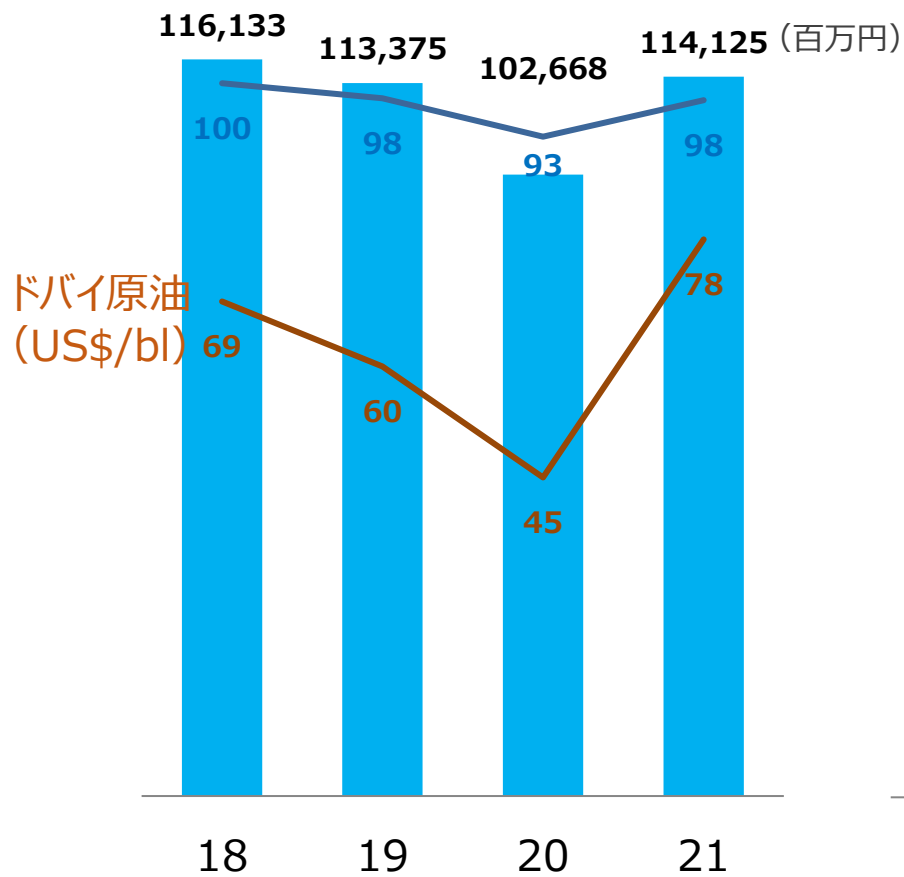


- 1. 2022年3月期決算概要（2021年度）**
2. 2022年3月期決算補足（2021年度補足）
3. 2023年3月期決算見通し（2022年度見通し）
4. サステナビリティ経営の進捗

業績ハイライト

Growth

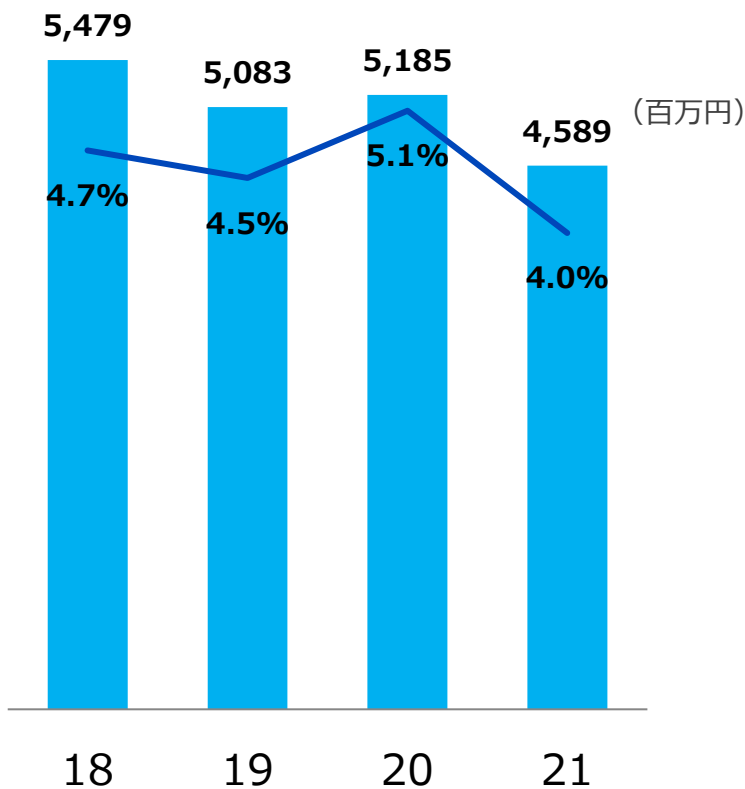
売上高・販売数量



販売数量 2018年=100

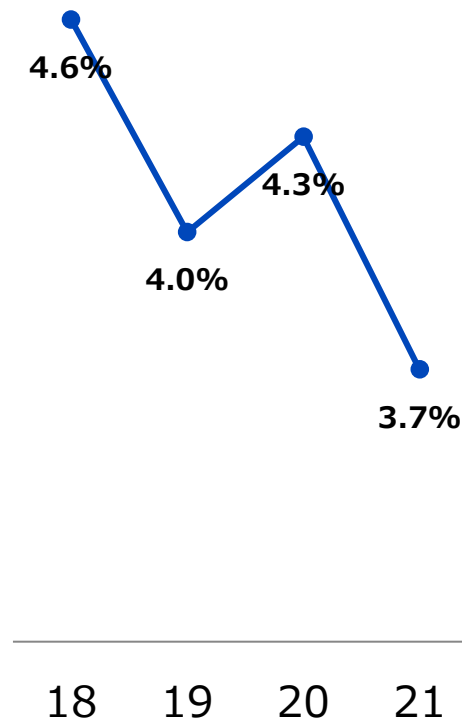
Margin

営業利益・営業利益率



Return

総資産経常利益率



決算概況

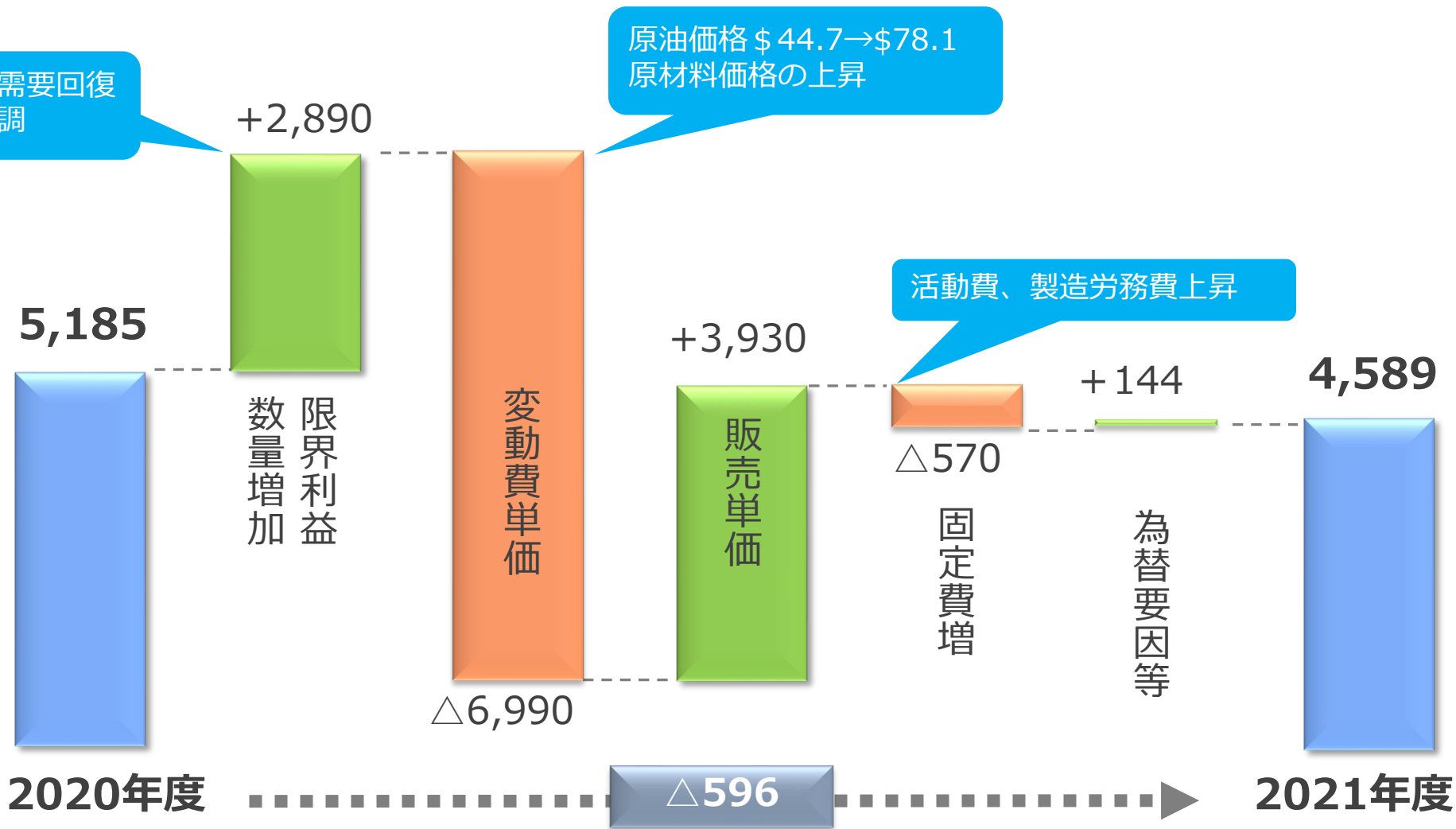
項目 (単位：百万円)	2020年度 実績	2021年度 業績予想 (2022/1/31)	2021年度 実績	前年比	公表比
売上高	102,668	113,000	114,125	+11.2%	+1.0%
営業利益	5,185	4,700	4,589	△11.5%	△2.4%
経常利益	5,519	4,900	4,868	△11.8%	△0.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,017	3,200	2,893	△4.1%	△9.6%

	2020年度	2021年度
ドバイ原油 (US\$/b1)	44.7	78.1
為替(円/US\$)	106.4	110.4
為替(円/€)	122.0	130.4

- 世界経済：経済活動の段階的な制限緩和により、個人消費を中心に回復基調。新型コロナウイルス感染症変異株の再拡大や半導体などの部品供給不足、原材料価格高騰などにより回復ペースは鈍化。
- 国内発泡プラスチック業界：巣ごもり需要は継続。低下していた需要も緩やかに回復。原材料価格が高騰。
- 売上高：付加価値の高い製品の販売増加や製品価格改定により、前年比11.2%増。
- 営業利益：原料価格高騰の影響などから前年比11.5%減。

営業利益の増減要因

- 自動車分野需要回復
- 産業資材好調



押出事業

項目 (単位：百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	前年比
売上高	37,595	39,076	+3.9%
営業利益	2,576	2,782	+8.0%

高付加価値製品の販売増加や製品価格改定で増収、販売増加などにより増益

食品包材・容器



「スチレンペーパー」
「ミラボード」

- 「ミラボード」の販売は増加
- 食品トレー向け分野は、前期の一時的な急増からは減少
- 売上は製品価格改定もあり増加

産業用包装材



「ミラマット」
「キャプロン」
「Pボード」

- 付加価値の高い産業資材製品の販売は大幅に増加
- 汎用製品も販売増加

住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム」

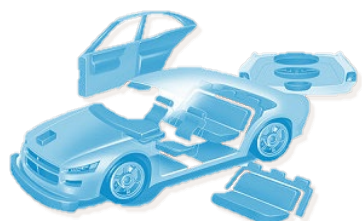
- 建築・住宅分野向けの販売は、前期並み
- 土木分野向け販売は減少

ビーズ事業

項目 (単位：百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	前年比
売上高	59,893	68,513	+14.4%
営業利益	3,550	2,620	△26.2%

自動車分野などでの需要回復で増収、原料価格高騰の影響により減益

自動車部品・家電緩衝材・グラウンド基礎材



「ピーブロック」
英名「ARPRO」
「エレンポールNEO」



- 「ピーブロック」は緩やかながらも需要回復
- 国内：自動車分野などが増加
- 北米：自動車メーカーの生産調整で緩やかな増加
- 欧州：自動車・非自動車分野ともに増加

発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロディア」
「ヒートポールGR」
「クリアポール」
「FOAMCORE」

- 「スチロディア」水産・農業分野での需要の影響により販売は減少、売上は製品価格改定により増加
- ハイブリッド成形品「Foamcore」は需要回復

その他

項目 (単位：百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	前年比
売上高	5,179	6,536	+26.2%
営業利益	96	212	+119.9%

国内自動車部品輸送関連等の販売が回復、中国需要好調

国内一般包材



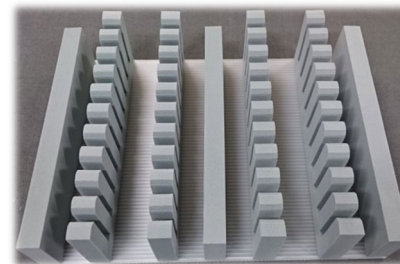
自動車部品トレー



情報家電緩衝材

- 自動車部品輸送関連等の販売が回復したことなどから売上は増加

中国一般包材



自動車部品搬送材



光学部品緩衝材

- 各種部品関連の需要が好調に推移し売上増加

4つの成長エンジン進捗状況



自動車関連部品

*1



建築住宅断熱材

*2



FPD表面保護材



新たな事業領域

2023年度目標 (2019年度数量比)	+23%	+12%	+20%	売上高30億円
	軽量化が追い風 省エネ・リサイクル要求に対応した次世代製品供給	省エネ住宅要求の高まり 高性能断熱材需要拡大	LCD/有機ELパネル、 パソコンなど需要増 海外展開拡大	新規事業、M&A案件、 既存有望テーマの事業化の 推進
2021年度実績 (2019年度数量比)	+2%	△7%	+33%	売上高1億円
	自動車生産台数は回復途上 (2019年比87%) コロナ禍に加え、半導体などの 部品供給不足の影響	主に半導体などの部品供給 不足による住設機器不足の 影響	パソコンやディスプレイなどのデ ジタルデバイスの需要が増加 中国向け出荷好調	射出成型事業に参入、 Ghepi社(伊)に35%出 資しました

*1 EPP事業の販売数量

*2 建築土木事業の販売数量

目次

1. 2022年3月期決算概要（2021年度）
- 2. 2022年3月期決算補足（2021年度補足）**
3. 2023年3月期決算見通し（2022年度見通し）
4. サステナビリティ経営の進捗

経営成績

年度 (単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2021年度	114,125 (11.2%)	4,589 (△11.5%)	4,868 (△11.8%)	2,893 (△4.1%)
2020年度	102,668 (△9.4%)	5,185 (2.0%)	5,519 (5.9%)	3,017 (△17.1%)

包括利益：2021年度 6,029百万円 2020年度 2,594百万円

年度	1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2021年度	97円06銭	3.4%	3.7%	4.0%
2020年度	101円22銭	3.7%	4.3%	5.1%

主要な日本円への
換算レート(1~12月)

通貨	US\$	€	RMB
2021年度	110.38	130.36	17.12
2020年度	106.43	121.98	15.41
前期比	103.7%	106.9%	111.1%

営業外損益・特別損益

営業外損益

科目 (単位：百万円)	2020年度	2021年度
受取利息	161	142
補助金収入	177	77
その他	350	345
営業外収益合計	689	565
支払利息	144	111
為替差損	128	27
その他	81	147
営業外費用合計	354	286

- ※ 1 韓国法人における火災損失の保険金の一部
- ※ 2 欧州グループ会社における資金流出事案の一部回収
- ※ 3 国内子会社(2社)・北米子会社の機械装置、建物他
- ※ 4 韓国法人における火災損失

特別損益

科目 (単位：百万円)	2020年度	2021年度
固定資産売却益	9	34
受取保険金	—	70※ 1
子会社における送金 詐欺回収益	—	19※ 2
特別利益合計	9	124
固定資産売却損	6	53
固定資産除却損	97	137
減損損失	—	522※ 3
子会社整理損	242	—
子会社における 送金詐欺損失	984	—
火災による損失	—	128※ 4
特別損失合計	1,332	842

財政状態

年度 (単位：百万円)	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
2021年度末	134,527	90,231	63.9%	2,884円93銭
2020年度末	129,053	85,561	63.9%	2,767円26銭

(参考) 自己資本
 2021年度末 85,995百万円
 2020年度末 82,488百万円

年度 (単位：百万円)	現金及び預金	短期借入金※	長期借入金	借入金合計
2021年度末	16,183	12,008	7,870	19,878
2020年度末	17,400	11,673	8,680	20,353

主要な日本円への
換算レート

通貨	US\$	€	RMB
2021年度末	115.01	130.55	18.06
2020年度末	103.48	126.97	15.87
前期比	111.1%	102.8%	113.8%

※1年以内返済予定の長期借入金を含む

貸借対照表

科目 (単位：百万円)		2020年度末	2021年度末	増減額
資産の部	流動資産	62,456	68,503	6,046
	固定資産	66,597	66,024	△573
資産合計		129,053	134,527	5,473
負債の部	流動負債	31,275	33,098	1,822
	固定負債	12,216	11,197	△1,018
	負債合計	43,492	44,295	803
純資産の部	株主資本	85,191	85,726	534
	その他包括利益累計額	△2,703	268	2,971
	非支配株主持分	3,072	4,236	1,163
	純資産合計	85,561	90,231	4,670
負債純資産合計		129,053	134,527	5,473

純資産の部

科目 (単位：百万円)		2020年度末	2021年度末	増減額
株主資本	資本金	10,128	10,128	—
	資本剰余金	13,405	13,405	—
	利益剰余金	63,045	63,580	535
	自己株式	△1,387	△ 1,388	△0
	合計	85,191	85,726	534
その他の包括 利益累計額	その他有価証券評価差額金	527	346	△181
	為替換算調整勘定	△4,182	△ 810	3,372
	退職給付に係る調整累計額	952	732	△219
	合計	△2,703	268	2,971
非支配株主持分		3,072	4,236	1,163
純資産合計		85,561	90,231	4,670

キャッシュフロー・設備投資額・減価償却費・研究開発費

キャッシュフロー

年度 (単位：百万円)	営業活動による キャッシュフロー	投資活動による キャッシュフロー	財務活動による キャッシュフロー	現金及び現金 同等物の残高
2021年度	5,972	△5,888	△2,565	10,520
2020年度	12,211	△5,174	△2,266	12,278

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年度 (単位：百万円)	設備投資額	減価償却費	研究開発費
2021年度	5,658	6,832	2,183
2020年度	5,668	6,608	2,246

(注) 設備投資額はキャッシュベースであります。

目次

1. 2022年3月期決算概要（2021年度）
2. 2022年3月期決算補足（2021年度補足）
- 3. 2023年3月期決算見通し（2022年度見通し）**
4. サステナビリティ経営の進捗

決算概況

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 見通し	前年比
売上高	114,125	128,000	+12.2%
営業利益	4,589	4,300	△6.3%
経常利益	4,868	4,500	△7.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,893	3,100	7.2%

		2021年度	2022年度 見通し
ドバイ原油 (US\$/bl)	4-3月	78.1	110
為替 (円 / US\$)	1-12月	110.4	120
為替 (円 / €)	1-12月	130.4	130

● 前提条件：

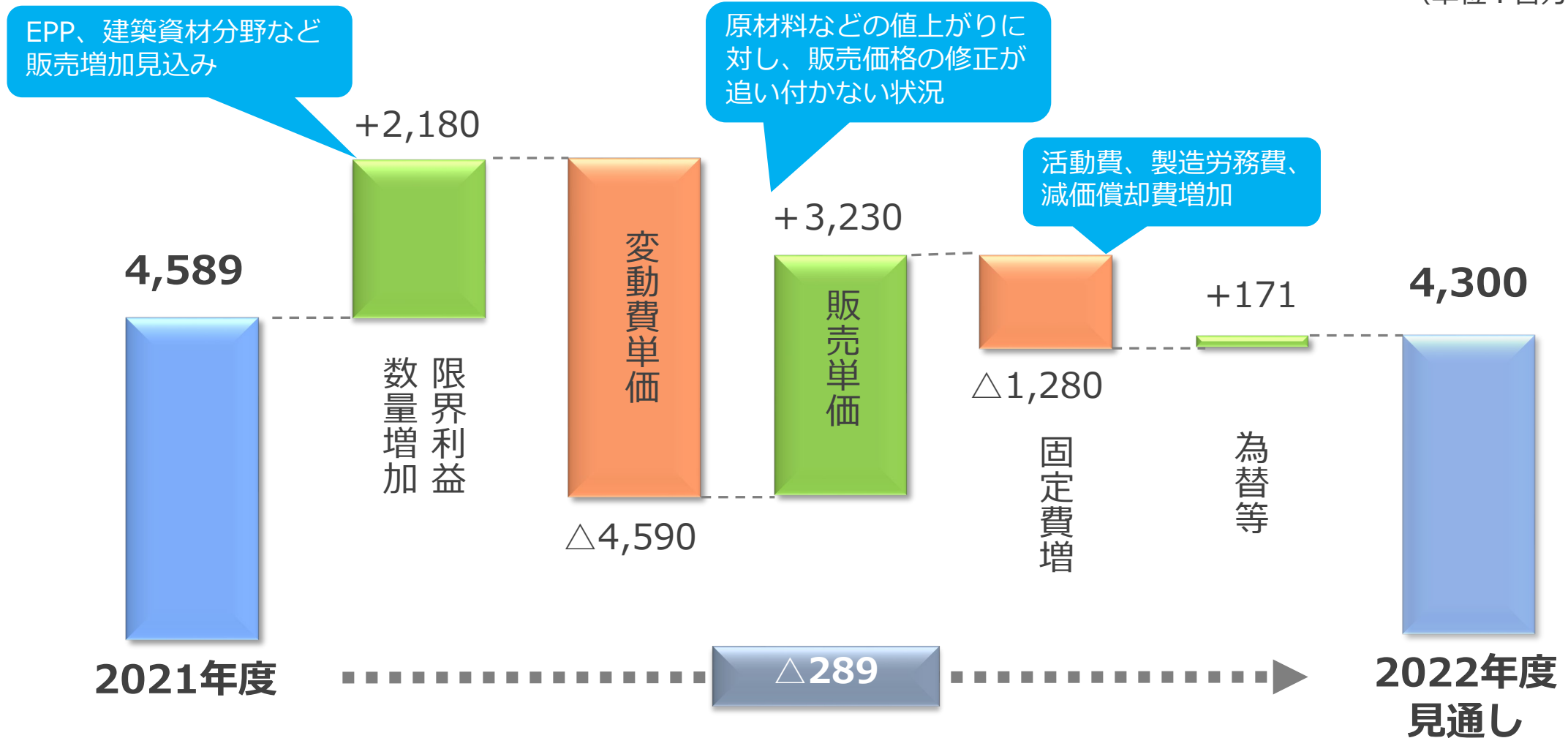
- ① 地政学リスクの高まりを背景とする原材料価格高騰や、サプライチェーン混乱の解消は不透明
- ② 中国のロックダウンの実施などにより不確実性増大
- ③ 各国における行動制限の緩和などを背景に、景気は回復基調で推移

● 配当：

1株当たりの配当金 (予想) 年間 50円 (中間25円、期末25円 (予想))

営業利益の増減要因

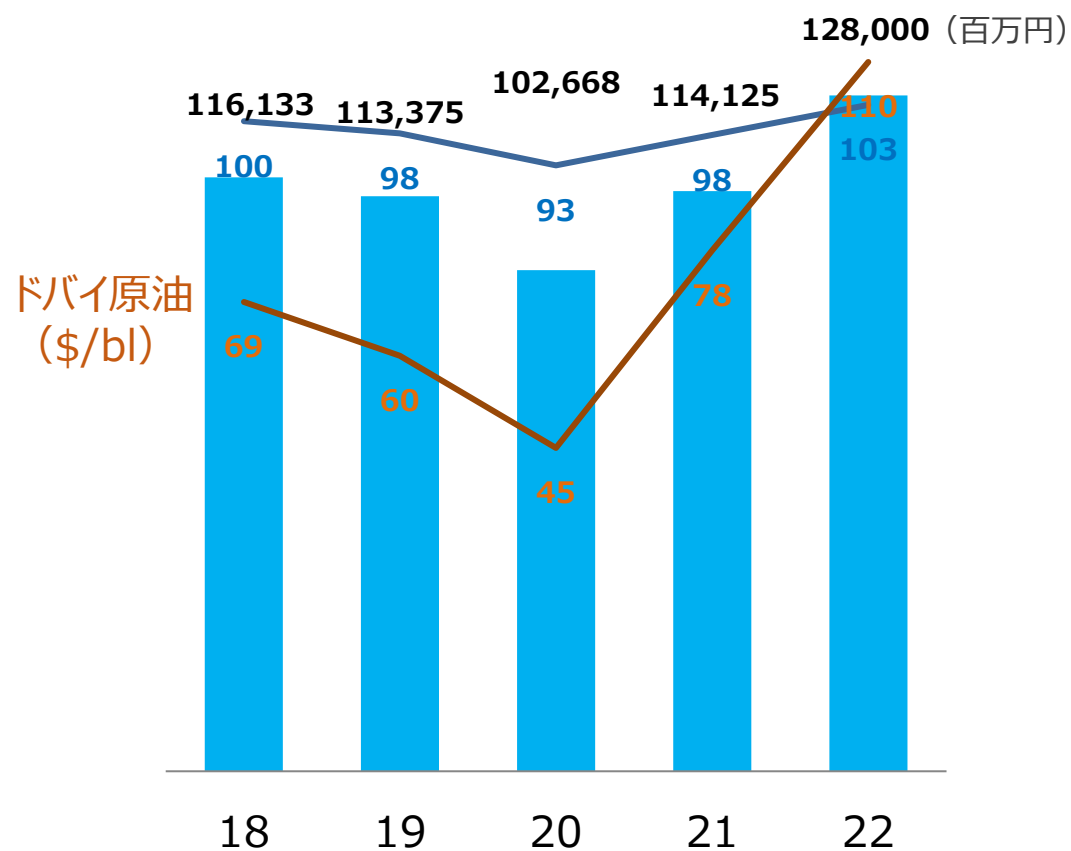
(単位：百万円)



業績の推移

Growth

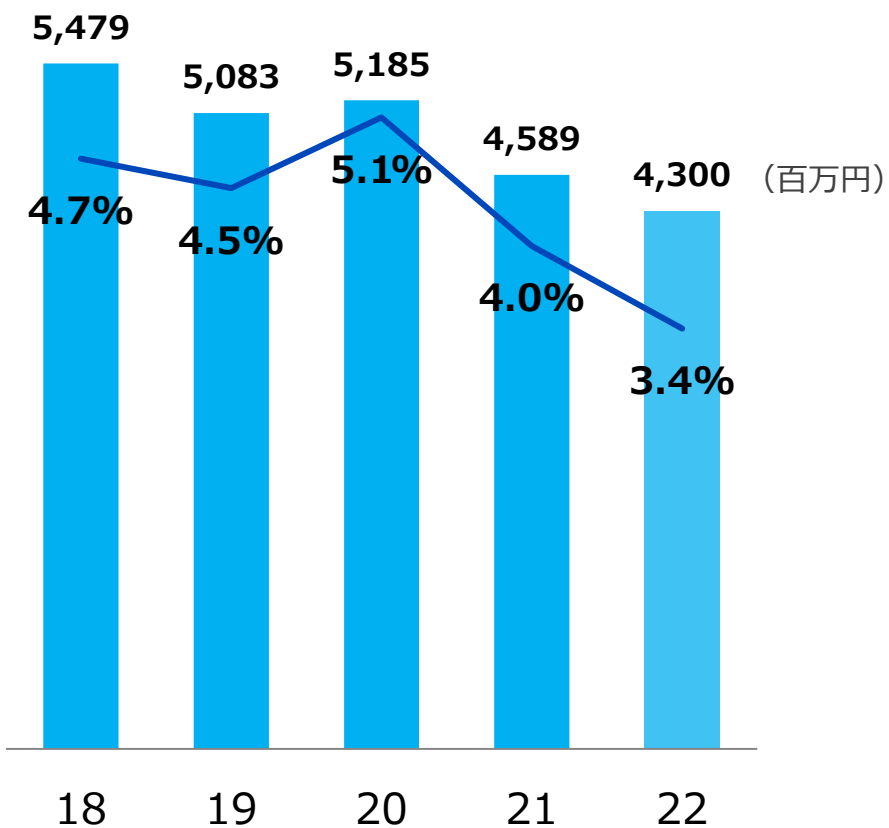
売上高・販売数量



販売数量 2018年 = 100

Margin

営業利益・営業利益率



押出事業

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 見通し	前年比
売上高	39,076	41,500	+6.2%
営業利益	2,782	2,100	△24.5%

販売の増加と製品価格の改定により増収、原料価格の上昇の影響により減益

食品包材・容器



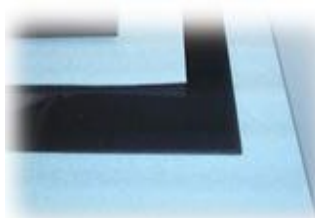
「耐熱PSP」



「ミラボード」

- 環境対応型製品の上市により需要拡大を図り、販売は増加する見込み

産業用包装材



「ミラマット」
「キャプロン」
「Pボード」

- 引き続きフラットパネルディスプレイ保護材の需要は堅調に推移する見通し

住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム」



「Jウォールブロック」

- 住宅資材の高騰などにより住宅取得マインドの低下が懸念
- 省エネ性能の高い住宅や建築物の需要が高まると予測

ビーズ事業

項目 (単位：百万円)	2021年度 実績	2022年度 見通し	前年比
売上高	68,513	80,500	+17.5%
営業利益	2,620	3,200	+22.1%

販売回復と製品価格の改定により増収、販売増と製品価格の改定により増益

自動車部品・家電緩衝材・スポーツシューズ



「ピーブロック」



「エレンポールNEO」

- 引き続き半導体などの部品供給不足が自動車メーカーの稼働に影響
- コロナ禍からの回復も期待され、販売は増加

発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロダイア」



「クリアポール」



「ヒートポールGR」

- 「スチロダイア」など：機能的製品の需要増などにより販売は増加する見込み

セグメント別見通し・設備投資・減価償却

項目 (単位：百万円)	2021年度実績		2022年度見通し		前年度差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
押出事業	39,076	2,782	41,500	2,100	2,424	△682
ビーズ事業	68,513	2,620	80,500	3,200	11,987	580
その他	6,536	212	6,000	100	△536	△112
調整額	---	△1,026	---	△ 1,100	---	△74
合計	114,125	4,589	128,000	4,300	13,875	△289

- 設備投資額 7,800百万円
- 減価償却費 7,000百万円 (2021年度比約200百万円増加)

目次

1. 2022年3月期決算概要（2021年度）
2. 2022年3月期決算補足（2021年度補足）
3. 2023年3月期決算見通し（2022年度見通し）
- 4. サステナビリティ経営の進捗**

サステナビリティ経営の進捗

マテリアリティの特定とTCFD対応

- ◆ マテリアリティ（重要課題）を特定
- ◆ TCFD提言への賛同を表明～気候変動に対する情報開示を強化～

◆ 今後の計画

プライム市場上場企業として、TCFD提言に基づいた、気候変動対応に関する取り組みについて、またGHG（温室効果ガス）の排出削減目標に関して開示を準備しております。

サステナビリティ経営の推進により、持続的な成長と、社会的価値の創造を目指して参ります。



サステナビリティ経営の進捗

ピーブロック/ARPROの変革戦略

- ◆ 製品販売を通じて省エネ、環境保全に貢献する（GHG排出量削減）
- ◆ タイプⅢの環境ラベル（EPD）を取得
- ◆ 製品のマテリアルリサイクルを推進する
- ◆ 製品ライフサイクル全体における環境負荷低減に貢献する製品や製造技術の開発を推進

ARPRO

EPD®

ARPROはタイプⅢ（製品のライフサイクル全体の定量的環境情報）の環境ラベルを取得し、情報開示しています

ARPRO

REVOLUTION

リサイクル原料をほぼ100%
使用した製品を開発



ARPRO RE OCEAN（海洋廃棄物を再利用した製品）を使用した保温箱

(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株式会社 J S P

お問合せ Tel 03-6212-6306 広報IR室